NEWS

森美術館チャリティーオークションが開催されました!

12月3日(金)、森美術館にてサザビーズジャパンの協力によるチャリティーオークションが開催されました。国内外で活躍する様々なアーティストが趣旨に賛同してくださり実現したアートとチャリティの新しい可能性を提示したイベントです。出展作品のうち、日比野克彦さん、蜷川実花さんデザインによる世界に一台の BMW MINI ONE がそれぞれ 230 万円と 220 万円もの高額で落札され、それらすべてを、子供地球基金を通して世界中の子どもたちの創作活動の応援のために使わせていただきます。





玉川高島屋 S・C"ホワイト・エンジェルプロジェクト"開催中 12/25 sat まで

「平和なクリスマスを世界中の子どもたちに贈りたい」そんなメッセージを込めて始まった チャリティイベント "ホワイト・エンジェルプロジェクト"。3回目となる今年も、12月 25日クリスマスまで玉川高島屋 $S\cdot C$ で開催されています。募金ボックスの設置に加えて、世界中の子どもたちへのメッセージを書いたり、白い羽をツリーに飾ることができるコーナーもある、参加型のチャリティ企画です。今年は、過去2年分のチャリティで支援していただいたカンボジアのエイズ孤児のフォトギャラリーも併設されています。

婦人服ブランド「リツコシラハマ」と「子供地球基金」のダブルネーム

子供地球基金の活動に 15 年に渡り参加して頂いているデザイナーの白浜利司子さんが、自身のブランド「リツコシラハマ」05 年春夏物で特別商品を発売。デニムやジャケット&パンツ、Tシャツなどのアイテムに、子どもたちのアートがアップリケやパッジとなって散りばめられた商品で、タグには「リツコシラハマ」「KIDS EARTH FUND」のダブルネームが。白浜さんの「暴力からは何も生まれない」という思いが込められています。売上の5%が子供地球基金に寄付されます。



デザイナー 白浜利司子さん (右)と鳥居

Charity Wine Party チャリティワインパーティ

毎月第一木曜日の「チャリティワインパーティ」も12月2日で第3回目。これまでに、のべ200名を超える方々がご参加下さり、チャリティにご協力いただいています。12月のテーマはもちるんクリスマス!世界中の子どもたちが描いたクリスマスの絵と大きなツリー、七面鳥グリルとワインで、一足早いクリスマスパーティとなりました。また、新潟の緊急支援活動など、最近の活動も映像をまじえてご報告いたしました。毎回ゲストによるお楽しみもあり、これまで、ボサノバ、ピアノと歌、抹茶のお点前、パペットショー…幅広いジャンルの方々にお越しいただき、すてきな演出をしていただきました。ぜひそちらもお楽しみに!

開催日: 毎月第一木曜日 (次回 2005 年 2 月 3 日) 18:30 ~ 20:30 会 場: キッズアースギャラリー (東京都渋谷区恵比寿 3-29-9) ※ お申し込みは子供地球基金事務局まで (Tel 又は Email)





2005年カレンダーができました!

毎年、さまざまな企業が世界中の子どもたちのアートを使ってチャリティカレンダーを作成してくださっています。2005年は、「キューサイ」「チキータユニフルティジャパン」がカレンダーを作ってくださいました。それぞれ顧客の方々へ配布されるとのことです。

NEW MEMBERS

2004年に新規にご入会いただいた方々です

(個人会員) 石井 久美子 様 / 大村 芳明 様 / 杉村 亨之 様 憲子 様 / 須能 朝子 様 / 前川 佳子 様

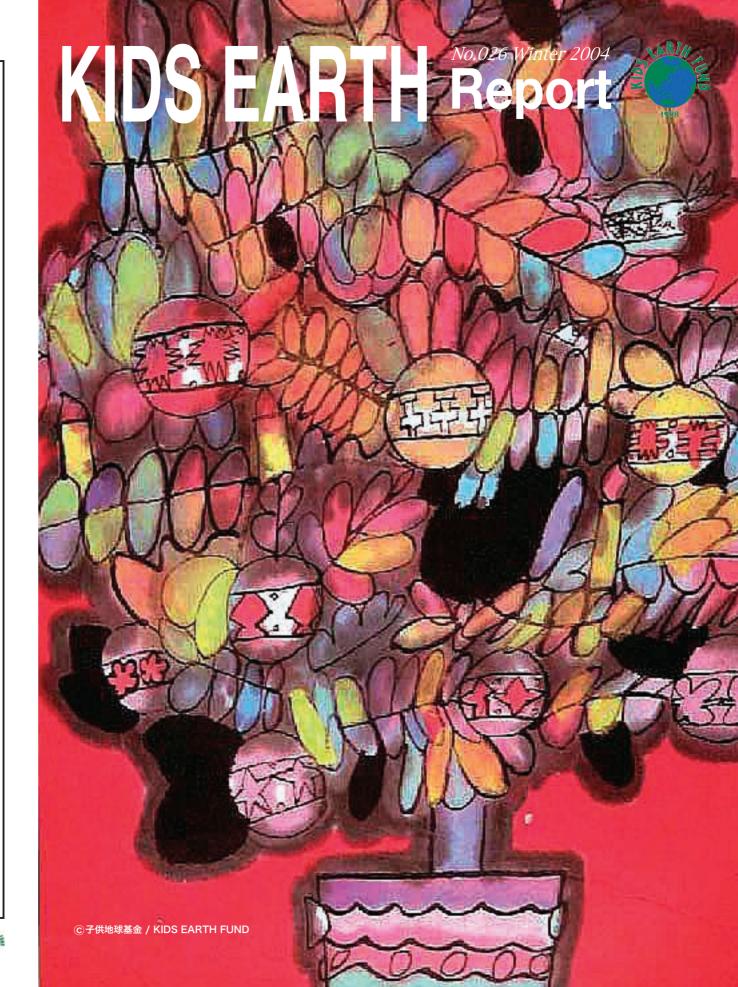
(団体会員) アルフレックスジャパン株式会社 / コールマンジャパン株式会社

(里 親) 神谷 いづみ様/木元 明里様/中井 史様/ 西永 信行様 之恵様/日置 雄也様/ほか匿名1名

※ベトナムのキッズ・アース・ホーム (ストリートチルドレンの学校)
へ通う子どもたちの里親の方々です。

(ビッグファミリー会員) 石井 久美子様/田邉 直美様/ほか匿名2名

(2004年9月1日~11月30日現在・五十音順)





KIDS EARTH CAR Project キッズ・アース・カープロジェクト

新潟県中越地震緊急救援活動

10月23日夕方、新潟中越地方で震度7もの大き な地震が起こり、たくさんの方々が被災されまし た。10月30日~11月3日、子供地球基金スタ ッフ4名(代表:鳥居晴美、事務局:永田真貴子・ 高橋美帆、ボランティア:高橋秀政)は、キッズ・ アース・カーにて新潟県小千谷市へ向かい、支援 活動を行いました。大きな揺れの恐怖、家を失っ たショック、絶え間ない余震への不安…大きな心 の傷を負い、被災後数日たっても親の側から離れ ようとせず、こわばった顔をした子どもたちと出 会いました。物資などもまだ十分に行き届いてい なかった地域を中心に、物資の配布や、崩れた家 の片付けの手伝いなどを行いました。また、子ど もたちがほんの一瞬でも心を休め、笑顔を取り戻 せるような場所をつくりたいと思い、遊び場づく りや話相手としての心のケアをしました。



■子どもたちの遊び空間づくり



緊急避難所に、子どもたちらしい温かい雰囲気と 木の温もりのある遊具を設置し、"遊びの空間"を つくった。はじめは表情が固かった子どもも、こ の空間で少しずつ笑顔を取り戻してきた。

■倒壊家屋の復旧作業のお手伝い



「おじいさんにお線香をあげられるように片付けたい」とおっしゃった一人暮らしの70代のおばあさん。家の壁はなくなり半壊だった。お仏壇のある部屋と台所の片付けを手伝い、どうにかきれいになると、顔に安堵の表情が浮かんだ。

■音信不通となった親戚探し

「車で10分程度の距離に住む弟一家と地震以来連絡が取れない」と不安そうに打ち明けてくださったおばあさん。すぐにキッズ・アース・カーで探しに尋ねて回り、無事再会できた。少しほっとされた様子のおばあさんだったが、今なお、皆ばらばらの避難所暮らしが続く。

横浜市役所訪問

新潟へ向かう途中偶然、中田宏横浜市長はじめ市 職員の方々とお会いし、それがご縁となり、小千 谷市では互いに協力して活動を行いました。横浜 市保有の赤城林間学園は、今回子供地球基金スタ ッフが活動の拠点とした緊急避難所です。村全体 が山崩れに埋まってしまうような地域の家族や、 地域ごと避難している方が大勢いらっしゃいまし た。11月26日に横浜市役所を訪問し、皆様か らの義援金の一部は、ここへ避難される方々の食 事代として中田市長へお渡ししました。

義援金・物資のご提供

子供地球基金で義援金を募集したところ、皆様からあたたかいご寄付をいただきました。スタッフー同心よりお礼申し上げます。

義援金総額 943,775 円 (11 月 30 日現在)

〈使用内訳〉

購入費 141,849円 (食料品、防寒具、タオルなど)

避難所寄付 801,926 円

(緊急避難所・横浜市立赤城林間学園 の被災者の方の食事代として)

また、たくさんの企業・個人の方々より様々な物資をご提供いただきました。(以下五十音順)
・IKEYA(休製遊具)・コールマンジャパン(寝袋大人用56本、子ども用40本、防寒具24着、テント、ランタン、ガスパーナー)・株式会社チキータユニフルーティジャパン(毛布75枚)・株式会社トミー、株式会社トミーダイレクト(おもちゃ、ゲーム)・有限会社モジュンダーアンドカンパニー(傷害保険スタッフ4名、7日分・ユニダインターナショナルスクール保護者の皆様(お菓子、子ども服)

その他、個人の方からおむつなども頂きました。

11月 愛育養護学校ワークショップ

秋も深まる 11 月、キッズアースカーは港区南 麻布の愛育養護学校を訪れて紙すきのワークショップを行いました。

落ち葉の舞い散る校庭に紙すきの道具一式を並べ、いくつも見本を作って窓に飾ると、だんだんと子どもたちも興味を持って、先生やお母さんたちと一緒に様子を見にやって来ました。

すいた紙の原料の上に、キラキラ光るスパンコール、折り紙を小さく切ったもの、毛糸などなど、気に入ったものを思い思いにのせて仕上げをします。紙すきがとても気に入った男の子は、しばらくしてからおもちゃを持って現れ、なんとブロックのおもちゃを紙の中にすきこみました。いつもの紙すきワークショップではでないような、新しいアイディアがどんどん生まれ、ハラハラ落ちてくる葉っぱや砂、泥など、どれもすてきな材料に変身しました。

子どもたちも先生方もお母さん方も、そしてス タッフもみんなが楽しんだ秋の一日でした。







キッズアースカーにたくさんの物資を積んで

Å

KIDS EARTH HOME Project キッズ・アース・ホーム東京

■ NEW プログラム 紹介

前回に引き続き、ホーム東京で行われているワークショップのオリジナルプログラムをご紹介します。今回のテーマは「聴く」です。

Program 2 (耳をすませてみよう!)

そっと目を閉じて耳をすませます。仲良しのお友だちがいても、おしゃべりはしません。するとどんな音が聞こえるでしょう?鳥の声、風の音、誰かの足音・・・いつもと違う音に気づくことができるようになったら、自分の心の声もよく聞こえるようになるかもしれません。

■ワークショップレポート

JETTE TON ARME (武器を捨てよう!)

メデュサン・ドゥ・モ ンド(世界の医療団: 本部/仏パリ)との 協働ワークショップ が行われました。は じめに Covenant Players による平和を



テーマにしたミニドラマが上演され、続いてはアーティスト高瀬智淳さんのリードで、おもちゃのピストルをもっと別のすてきなアート作品に作り変えるワークショップ。子どもたちなりの「もう武器はいらない!」という夢のあふれる平和へのメッセージが発信されました。

KIDS EARTH HOME Project 第7号ホーム カンボジア

KIDS Care Cambodia 〜エイズ孤児のホーム〜 最新 News

クリスマスプレゼントをもらったよ!



常夏で仏教の国カンボジアには、クリスマスを祝う習慣はあまりないのですが、ホームの子どもたちは、ちょっと早めのクリスマスをお祝いしました。11月19日に代表の居がホームを訪れ、ジングルベルを歌ったり、大きなクリスマスツリーの下でソックスに入ったプレゼントをもらった子どもは大喜び。

子どもたちが夢中なこと、苦手なこと ~現地スタッフ近藤千晶の日記より~

風船で遊んでいた子どもたち。水を入れて遊んでいるうちに風船が破裂して床が水浸しに・・・でも、ちゃんと自分たちでモップでふいていました。 女の子たちは算数が苦手のようです。幼稚園に行っているスレイニャとブイに今日何を勉強したか聞くと、ブイは「字をひとつ習ったけど、もうひとつは忘れちゃった」といって笑っていました。

DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol. 8

彫刻家 / 子供地球基金 顧問委員 眞壁 廉

子供地球基金って、小さなボランティアグループかと思いきや、結構大きいんだよね。人材や、資金とかの話じゃぁなくて、目指すモノと言うか、相手にしているモノがさ。何て言たって、世界の子供相手だもんね。こりゃぁ尋常じゃぁない。最初の内は海外の恵まれない子供たち・・とか言ってたけど、最近じゃぁお膝元の日本の子供もヤバイってんで、日本の子供達の精神的なケアを目的としたプロジェクトも立ち上げた。絵を描く子供達が絵を通じてお互いを励ましあい、ひいては助け合うことが出来て、尚且つ自らの精神の内面に潜む欲求も吐露することが出来るっちゅう、一つの絵で3つ美味しいというプロジェクトなんだね。うまい事考えたもんだ。以前にも描いてもらっていた「NYの子供達への励ましの絵」のプロジェクトの様に、何か目的を持った絵を描いてもらったっちゅうプロジェクトとは違い、比較的テーマは漠然としていることで、子供達の深層心理を読み取る試みを重ねながら、新たな大人とのコミュニケーションの在り方を模索するなんざぁ、半端な事じゃないわ。でも、面白い。これはひょっとして、未来のアート表現の在り方を示唆しているのかも知れないね。ART&SCIENCEを子供達の絵をもとに考えていて、キッズアースカープロジェクトはそのプロトタイプのプロジェクトとして重要なスタートを切ったことになる。今後も色々なスタディーを重ねながら、子供達とより深いコミュニケーションをとって未来を見詰めて行く事になるんだな。

キッズアースカープロジェクトで、僕が会った子供達は自分の命の灯火を見せつけられる現実の中に身を置いている子が多かった。言ってみりゃぁ、サイバーパンクそのものなんだよ。でも、あの子供達は何かを信じようとし、未来の夢を見付けようとしているように僕には見えたね。

僕は彼等の夢をもっとリアルに感じたいと思った。そして、僕達大人が一緒に見られる夢は何だろうとも考えた。それは勿論人によって違う。病院から出て、美味しい餃子が食べたいと言う子もいれば、生まれてこの方、ベッドを降りる事が許されず、動物園に行った事がないと言う子もいたし、イラストレーターになりたいと希望を話す女の子もいた。お父さんを亡くしたばかりの女の子は、口に出せないお父さんへの気持ちを絵に表わしていた。そんな彼等と僕達が一緒に見られる夢って何だろう。一人一人の目の前の小さな希望ではなくて、みんなが共に見る事が出来るもっと大きな未来の夢。きっと、これからの子供地球基金がその答えを見せてくれるような気がするね。その夢を探す旅は今始まったばかりだ。早くあの子供達にまた会いに行きたいなぁ。

●東京・東大和 ●東京・立川 10月27日 (水) ~12月28日 (火) ホンダクリオ新東京東大和店 10月15日(金)~10月25日(月) ホンダクリオドリームピア立川店 ●大阪・大阪市 ●東京・世田谷 10月1日 金 ~12月25日 出 リーガロイヤルホテル(大阪) 12月1日 6以 ~12月29日 6以 主催:パレロイヤル 日産厚生会玉川病院 ●東京・二子玉川 11月17日(水)~12月25日(土) 玉川高島屋ショッピングセンター